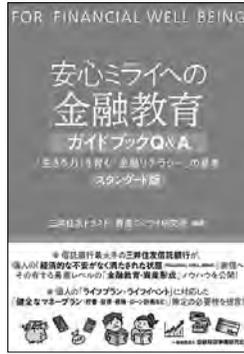


# 書評

京都大学  
名誉教授  
川北 英隆

## 『安心ミライへの 「金融教育」 ガイドブックQ&A』

- 編著者：三井住友トラスト・資産のミライ研究所
- 発行者：(一社)金融財政事情研究会
- A5判・248ページ(本体1800円+税)



本書は、「三井住友トラスト・資産のミライ研究所（ミライ研）」が金融教育を意識しつつ作成したものである。中学校や高等学校において金融経済教育が始まったことに対応している。というも次に述べるように、教えられる側の生徒のみならず、教える側の教員にとっても「金融」は未知の世界に近い。

評者は中学校や高等学校の教員自身から、「金融に関して学ぶ機会に乏しかった」と聞いている。そもそも現実に即して金融を講義している大学がどの程度あるのか。

日本の大学は金融に関して、「現実的な側面に注目して研究し、講義することはあまりにも生々しい」、だから「避けるべき領域だ」と暗黙のうちに位置付けてきた。知る限りでは、理論的な側面から金融や投資を研究する学者は日本にもそれなりにいる。しかし、それらの理論を現実の市場や制度と結びつけて研究し、その成果に基づいて大学で講義している学者は、ごく少数でしかないようだ。

中学校や高等学校の教員とすれば、大学で金融を大して学んでこなかっ

た。だから、金融を生徒に教えろと言われた瞬間、とりあえずは適切な参考書、すなわち虎の巻を探したいというのが本音だろう。

とはいえ、日本の大学での研究や講義が乏しい現状からすれば、適切な参考書はないに等しい。金融庁を筆頭に業界団体等が参考情報の提供を始めているものの、インターネット上の提供であり、精粗や形式などにバラツキがあり、かつコンパクトさに欠けている。

それではと、金融教育の虎の巻的な役割を担いたいというのが本書の意図である。流行りの「金融リテラシー」ではなく、「金融教育」と題された意味もここにあろう。

本書では、金融を幅広い角度から取り上げている。書き方はQ&A方式であるため、教える側からすればフィットしやすい。教えられる側からしても、教員の説明を十分理解する助けとなる。

序章で「金融の役割」を紹介した後、第1章では金融もしくは資産形成の底辺にある「ライフプラン」と「マネープラン」を概括している。

第2章では、投資、保険、借入な

どによる「資産形成」を具体的に取上げている。人生における目標感や局面などによって、これら金融商品の使い方に工夫が求められることにも理解が及ぼう。さらには、忘れがちな税金の重要性も取り上げられている。以上は資産形成のための重要な各論であり、本書において一番ボリュームのある箇所となっている。

第3章は「資産の管理・活用策」である。ここでは資産の取り崩しや年金が扱われている。中学校や高等学校の生徒には遠い先の話だが、個人にとっての金融とはそんな長い時間軸の中で考えるべきものだとの実例でもある。

その後、第4章ではファイナンシャル・ウェルビーイングやSDGs（意識すれば社会的な福祉・厚生）と金融の関係、第5章では「お金のトラブル回避術」、第6章では「実践に向けて」が扱われている。

個人が社会生活する上で、金融は避けて通れない。避けて通っていれば、どこかで誰かにだまされる可能性が高まる。だとすれば、金融と早くから適切に付き合い、その本質を知ることが賢明となる。

とはいえ、実社会において金融と適切に接するには多様な知識や経験が求められる。それらを一夜漬的に学ぶことは現実的でない。教える側としても、必要な知識や経験を完璧に備えているわけでもない。

この点で、さまざまな角度から金融を説明してくれる本書は重宝されよう。もっとも、この一冊だけでオールマイティーとはいかない。本書での答えに対して、さらに「なぜなのか」と突っ込んでほしい。新聞には本書で扱っていない話題や金融商品も多く登場する。答えを得るには、まず本書に挙げられた信頼できるサイトに入るのが良い。

次に実践である。本書を片手にこつこつ資産形成するつもりなら、財産を毀損する可能性は少なく、逆に多くを学べるに違いない。

本誌収録の読者アンケート（70ページ）にお答えをいただいた方の中から、抽選で5名様に上記書籍を贈呈致します。ご希望の方はプレゼント希望欄に○印をご記入の上、ご応募ください。なお、応募期日は2023年8月7日（必着）とし、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。